



## 【会員寄稿】 修学旅行報告

第2学年主任 岡村 直人

5月14日(海外班は13日)から2年生は修学旅行に行ってきました。今年は、関東、北海道に加えてシンガポール・マレーシアの海外コースも加わりました。いずれも高い満足度で、旅行後のアンケートでは、北海道とシンガポールが満足度100%でした。関東班も98%です。特に海外班では、異文化理解という点で評価が高く、アヤヒタムのホームビジット体験は、多くの生徒の見識を広げてくれたと思います。民族衣装を着て、地べたに座って右手のみで食事をしてみて、日本とマレーシアの文化の違いを感じてくれたものと思います。現在はネットの時代で、様々な経験・体験をメディアを通じて行うことができますが、やはり実体験に勝るものはありません。ただ、ホテルの評価は56%と低い評価となりました。国内班では、いずれも96%以上の満足度です。このことは、海外のホテルの質が低いのではなく、日本のホテルの質が高いと理解すべきでしょう。人の価値観や、文化の違いはあっても、その違いの中に絶対的な上下はない。このことに言及している生徒もいました。実に良い感性です。今回海外コースをとり入れて良かったなあと思っています。

北海道コースの目玉は雄大な自然の中での体験型アクティビティです。全員が参加したラフティングでは、満足度が100%でした。生徒の感想に「一人だけの力じゃ進まないし盛り上がれないけど、友達と一緒に協力することで楽しさが倍になった」とありました。大自然とふれあえる、アトラクションとしての楽しさもありますが、友達と協力してチャレンジすることに楽しさを見いだしてもらえたことが、大きな収穫だと思います。選択体験のフィッシングやアイス・ジャム作りも満足度が100%でしたが、マウンテンバイクは、63%でした。どうしました？疲れましたか？これは、基礎体力の高めの人にお勧めかもしれませんね。食事に関しては、「食の北海道」のイメージでしたが、ややお肉が多かったようですね。このあたりは、来年の課題としておきましょう。

関東班では、少しスケジュールがタイトだったようです。反省しております。私は自主研修の時間に浅草寺方面に行ってきました。浴衣とはちょっと違うような、着物を着た女の子がずいぶんと多いので、何かお祭りかイベントでもあるのかなと思っていましたが、飛び交う言語は非日本語です。アジア系の外国人が多いのですっかり誤解していました。



着物の皆さんは観光客 from海外の方のようです。仲店商店街も非日本語の表示にあふれています。東京下町のイメージは、古き日本・江戸情緒だったのですが、ずいぶんとアジアンテイストなインターナショナルさを感じました。時間は後戻りしない、常に前に進むのみと言うなら、これが今の浅草文化なのでしょう(これも異文化理解?)。この日、浅草で自主研修している本校生徒には出会いませんでした。彼ら彼女たちは、きっと都会と地方の異文化理解を実践していたのでしょう。

修学旅行では、単に観光を楽しんだというのではなく、何か気づきのあるものであってほしいと思います。そういった意味で、今回の旅が有意義であったことを切に期待しています。